



4 石坂石畳道

九州の真ん中、山深く、水豊かな郷愁の地
緑の水郷・日田路を行く
 緑深い山地と急峻な渓谷が入り組み、変化に富んだ地形が広がる九州。その中央に位置する天領日田の周辺には、歴史と技術を伝える遺産が現存しています。

端麗な容貌の鉄道橋群

大分自動車道の杷木ICから国道386号を東へ進み、JR久大本線の夜明駅の手前で国道211号へ左折し、福岡県朝倉郡東峰村へ向かいます。JR日田英彦山線沿いに北上する県道52号の東側、大行司駅～筑前岩屋駅の間に3基のコンクリート多連アーチ橋が現れます。南側の**第二大行司橋梁** **1** は橋長54.9mの4連アーチ、次の**宝珠山橋梁** **2** は橋長が最大の79.2mの5連アーチ、北側の**栗木野橋梁** **3** は橋長71.2mの5連アーチです。

筑豊炭田の石炭輸送のため、昭和13年(1938)に架橋された鉄道橋群は、当時の鉄材不足により無筋コンクリートで建造。アーチ内部に土砂を詰め、耐久性に優れ

た充腹アーチを採用したことで、長く現役で活躍してきました。緑の樹林を背景に、いずれも径間14mという端麗な姿を見せる多連アーチ橋群は、絶好の撮影スポットとして人気を集めています。

平成29年(2017)7月の九州北部豪雨災害によってJR日田英彦山線の一部区間が不通となり、その後、BRT(バス高速輸送システム)での復旧が決定され、現在、線路跡をバス専用道に改造する工事が進められています。

難路を改修した石畳道

江戸時代、幕府が九州の諸大名を監視する拠点とした天領日田は、九州の小京都と呼ばれ、大いに栄えました。西国筋郡代が置かれて九州の政治、経済、文化の

中心となり、日田と九州各地を結ぶ日田往還が整備されていました。

日田市から中津市に向かう国道212号に入り市ノ瀬川を渡ると、石坂石畳道まで300mの案内板が現れ、左手の集落に入って細い道を山手に進むと**石坂石畳道** **4** の入口があります。

ここから伏木峠に向かう急坂は、岩が露出した難所であったため、嘉永3年(1850)、地元の掛屋(町人蔵元)が石工を招いて普請させたのが、全長1,260mのこの石畳道です。道幅2.2mの中央部分には硬い切石を敷き詰め、その左右には自然石を配置し、堅牢さと美しさを実現しています。勾配は7度～10度で、急な所は牛馬の歩行に配慮して2、3歩進んでは1段登るような緩い段差とするなど工夫さ



1 第二大行司橋梁



2 宝珠山橋梁



3 栗木野橋梁

れています。竣工の翌年、広瀬淡窓によって石坂改修の由来を著した石碑が建てられています。

日田市から国道210号を東へ進み、ローソン日田天瀬町店を過ぎた右手、さかえ保育園前の道を入れて山手に向かうと、川原隧道入口の案内板があります。ここから坂道を登って行くと川原隧道・石畳道 5 に到着します。江戸時代の文政年間(1818~1831)、日田代官・塩屋大四郎が豪商・広瀬久兵衛に命じた日田~玖珠往還の改修で整備されたものです。

峠をはさんで全長約700m、幅1.5mの石畳道が築かれ、頂上には全長60m、幅2m、高さ3mの隧道が掘られています。天井部で2組の石材をハの字型に重ね合わせた合掌式トンネルは、内部の掘削面を石積みで防護した頑丈な造りです。竣工は嘉永7年(1854)。現存する合掌式トンネルでは最古のものとされています。

線には8基ものコンクリート多連アーチ橋が残されていて、この橋梁もそのうちの1基です。全長77.4mの堂々たるコンクリート9連アーチ橋は、径間7mのアーチが連続し、近代化を象徴する優美な姿をいまなお留めています。

この地域では国道386号沿いに多彩な特産品がそろう道の駅「原鶴」、国道210号沿いには旬の野菜、果物が豊富な道の駅「うきは」、国道212号沿いに「進撃の巨人ミュージアム」を併設した道の駅「水辺の郷おおやま」、国道387号沿いに地域の名産・加工品がそろう道の駅「小国」ゆうステーションがあります。

土木遺産 in 九州のホームページアドレス
<http://dobokuisan.qscpua2.com/>




5 川原隧道(上)・石畳道(下)

福岡県・朝倉郡東峰村
 熊本県・阿蘇郡小国町
 大分県・日田市



廃線跡に現存する橋梁

日田市から熊本県阿蘇郡小国町へ向かって国道212号を進み、途中で県道318号に左折して田園風景を走ると、突然、縦木川と水田、道路をまたぐ(廃)幸野川橋梁 6 の雄姿が現れます。全長112mのコンクリート6連アーチ橋は、4連を径間20mの大アーチとし、その両端に径間10mのアーチを連続させた構造。橋脚に3つの“透かし穴”を施したユニークな意匠が魅力的です。完成した昭和14年(1939)当時は鉄材不足のため、鉄の代わりに竹を使用した“竹筋コンクリート”造りだと言われています。

小国町から国道387号を北東へ進み、「岡本とうふ店」の看板から右に入り、同店の先で右へ折れると、「石のお風呂」があります。その向かいの道を進むと、(廃)広平橋梁 7 が見えてきます。旧国鉄宮原線沿



6 (廢)幸野川橋梁



7 (廢)広平橋梁